

## 分析研究『正則文部省英語讀本』（その2）

多賀 徹哉

『正則文部省英語讀本』は全5巻である。拙稿（その1）では第1巻についての分析を、外山正一著『英語教授法』（1897, 明治31）との関連に着目して試みた。本稿でも同様な分析を行うつもりである。

## 【1】『英語教授法』の内容

すでに、（その1）で整理したことではあるが、本稿での分析をより理解しやすくするために再度あげておく。

## (1) 構成

『英語教授法』の構成は以下の通りである。

緒言

第一章：外國讀本及是レニ類似ノ讀本      第四章：外國語ノ課業ニ於ケル一大弊風

第二章：文部省正則英語讀本              第五章：翻譯ノ仕方

第三章：正則英語讀本使用法              第六章：教師ヘノ注意

## (2) 各章の内容

(a) 緒言：ここでは出版の動機が述べられている。それは、「中学卒業生の英語の学力不足が問題にされているが、その原因は（1）教師自身の実力不足、（2）教授法の不良、（3）教科書の不適當ということである。本書では（2）と（3）を取り上げ、不適當な教科書を用い、そのためもあって教授法も稚拙ならざるをえない現状を矯正したい」というものである。

(b) 第一章：輸入教科書やそれを模倣した教科書は日本人の初学者に不便であることを述べ、その理由をあげている。外山は6項目に分けて説明しているがここでは4項目に分けてまとめる。

①輸入教科書は英米の（英語に通じている）子どもたちのために作られたものであるの  
で、日本人の初学者が直面する困難点に注意が払われていない。

例) 初級用の教科書から重文や複文が見られる。

文の長短に考慮がない。

冠詞についての配慮がない。

いろいろな構造の文が出てきて生徒は混乱する。

②輸入教科書は『訓練』という点に考慮が払われていない。

③輸入教科書を使用すれば、訳中心授業や、変則授業に陥る傾向が出てくる。またそれは教師にとってラクな授業でもある。

④英語教育の効果があがらないもうひとつの理由は訳読、発音、文法などが別々に教授されているからである。

(c) 第二章：ここでは、「正則文部省英語讀本」の特徴を解説している。

内容は「Dreyspring の独語教科書を参考にして編集しているが、英国の子どもが独語を学ぶのと、日本の子どもが英語を学ぶのとでは困難さが違うので、日本人の実情に合うよう工夫を加えた。文法を段階的に学べるように工夫し、丁寧な「訓練」を与えるようにした」ことが述べられている。

(d) 第三章：「正則文部省英語讀本」の使用上の注意について詳述した章である。いわば、教授マニュアルである。要点をまとめると次のようになる。

①「正則文部省英語讀本」は定期的に授業をするためのものである。

②教科書上の指示の説明。（これは次の教科書分析のところであらためて解説したい）

③会話練習は、始め教科書を見ながら行うが、後には教科書を閉じて行うことも必要である。教科書を暗記する必要はない。機械的な暗記は必要ない。

④どんなに簡単な文、句も生徒が覚え込むまでは何度も反復練習させる。

(e) 第四章：この章では英語教育の効果があがらない別の理由について解説している。生徒の実力に不相应な教科書を使って、生徒の能力でこなせる以上の分量の内容を、生徒が十分に理解していないうちに訳をつけるだけで終えて次へ進む授業が、ずいぶん多く行われている。この姿たるやまさに「大人ガ小兒ノ手ヲ挽キナガラ。驀地ニ馳セ行ク如クニ。」前へ前へと進み行くのである。

(f) 第五章：教科書の訳（翻訳）については直訳をよしとしている。外山の言う直訳とは原文の言葉のニュアンスを失うことなく、日本語として理解できるものということである。

(g) 第六章：外山は教師に対して次のような注意を行っている。中には行政側への提言もある。

①英語の授業がラクであるという偏見を叱責している。そして、教材研究をしっかりとやって熱心に教えよと注意している。また、下級生ほど授業は大切であるとも述べている。

②教科書使用の順序は最初に、「正則文部省英語讀本」の類のものをやって、力をつけてから輸入教科書に入るべきである。

③中学卒業生の英語力の目安は Peter Parley's Universal History (New York, 1870) がかなり分かる程度で十分である。英語教員の実力の目安は National Readers (?, 18?) がかなり教えられれば力のある教師といえる。

④教員改良が急務であるが、これは、待遇を考えなければならない。

⑤教員は英語力を磨き、教授法を研究しなければならない。

(3) 「英語教授法」における外山の英語教授法と教科書論

あらためて、外山の提唱する英語教授法と教科書論をまとめてみる。

(a) 外山の英語教授法

①音声によく注意しながら、耳、口、目、手を活動させる。

②反復練習をしっかりとさせる。(音読→訳→何度も音読)

③音読、訳、会話、文法などを総合的に教える。

(b) 外山の英語教科書論

①初級用のものは、日本人の事情にあったものを使用すべきだ。

②生徒の実力にあったものを使用すべきである。

③文法的配慮があるべきである。

④ひとつの教科書で音読、訳、会話、文法などが教えられるものであるべきである。

⑤特に『訓練』の工夫があるべきである。

では、外山の教授法や教科書論はどこからきたのかということも問題となろう。この点に関しては詳しい資料は見当たらない。『正則文部省英語讀本』の編集に携わった B.H.Chamberlain の影響があったと推察される資料がある程度である。また、当然のことながら、外山の留学体験、教師としての経験も活かされているであろう。

## 【2】『正則文部省英語讀本』の分析

### 1. 『英語教授法』と『正則文部省英語讀本』の前後関係と『英語教授法』出版の意味

外山の略年表からわかる通り、『正則文部省英語讀本』の出版のほうがはやい。従って、『英語教授法』は『正則文部省英語讀本』編集の主旨を反映したものであると見ることができる。

筆者は『英語教授法』出版の意味を次のように見ている。

①世に行われている外山から見れば間違った教授法に対する警鐘であり、理想的な教授法の提案である。

②外山によれば、教科書もまた、間違った教授法をのさばらせて原因のひとつであるので、外山の提唱する教授法にかなう理想的教科書、即ち『正則文部省英語讀本』の宣伝及び、使用法の具体的提示によってこの教科書また、教授法の普及のてだてが必要であった。

②については『英語教授法』中、2章を『正則文部省英語讀本』にさいていることから明らかであろう。

### 2. 正則と変則

「正則」という表現については歴史的経緯をまとめておく必要がある。(その1)でも触れたように外山のいうところの正則とは「英文を和訳しなくても意味が理解されるように教授する方法」である。『正則文部省英語讀本』の英文タイトルは“THE MOMBUSHO CONVERSATIONAL READERS”となっている。テキストの構成を見れば外山たちのテキスト編纂意図と英語授業のあり方(教授法)を容易に理解できる。

### 3. 構成

『正則文部省英語讀本』は全5巻からなっている。本稿では第2巻について分析を行いたい。第2巻も第1巻と同じ構成となっている。しかし、第2巻には“Introductory Remarks”はない。参考として整理しておく。

Introductory Remarks (英文)

I. 編集目的として、この教科書で“Think in English”を達成したいことをあげている。

II. 指示の説明（『英語教授法』中の説明と合わせて解説したい）

A	The Teacher	The Students	反復音読を丁寧に行い、次に意味を説明する。
	[To be learnt by Sight and by Heart]		
	The Teacher	The Student	まず、先生が問の文を読み、生徒が答える。
	The Student	The Teacher	次に、生徒が問の文を読み、先生が答える。
B	To be read across		音読（発音）練習に使う。意味は与えない。
	Slate Work		書写の練習をする。 (第1巻のみ)
	To be named		Alphabet の読み方を練習する。 (第1巻のみ)
	Dictation		教師が英文を読み、生徒は書き取る。

(注：A、B群は筆者が分析のために便宜上分けたものである)

#### 4. レッスン数とページ数

	第1巻	第2巻
lessons	5 2	3 8
pages	1 3 8	1 6 8
reviews	5	3

第2巻では第1巻に比べレッスン数が大幅に減っている。その反面ページ数が増えており、各レッスンの分量が増していることがわかる。第1巻において徹底的にトレーニングを積んでいるので十分対応できるという設定のもとでの編集と思われる。

レビューの数も減っているが、既出の構文を用いながら新しい事項を学ばせるようになっているので各レッスンが復習でもあり、新しい事項の学習（訓練）でもあるので、問題はない。

#### 5. 分析

第1巻での分析にあたって以下のような設定を行った。

##### (a) 語彙

AグループとBグループに分ける。活用形も1と数えた。

Aグループは構成の説明のところではAとした部分で使用された語または句。

Bグループは構成の説明のところではBとした部分で使用された語または句。

Aグループ：教科書に取り上げられている語を拾い出すに当たり、仮説として、「日本人の生徒の生活に密着した語が取り上げられているのではないか」ということと「応用表現が豊かになるような語が配列されているのではないか」ということの2点を設定した。

Bグループ：新出の語句を扱うのは“To be read across”のところだけである。

つづり字のパターンと発音を、練習によって帰納的に身につけさせる意図があるようだ。現代の教科書には見当たらないやり方だろうが、この方法の効果について興味がわく。

##### (b) 構文、文法

どのような構文、文法事項が取り上げられているかを調べ、その配列も含めて『英語教授法』の内容とどのように関連しているかを吟味した。

今回は語彙については（その1）で行ったリスト作りと検討はしなかった。次稿で第3巻についての分析と合わせて行いたい。「正則文部省英語讀本」は第1巻から第3巻まで同じスタイルだからである。

構文、文法については別表に各レッスンの中心となる構文としてリストを作った。

既出の構文・文法を入れながら新出のものを大胆に取り入れ、徹底的に口頭練習させるように編集している。したがって、戦後の「1時間分のレッスンに1項目」の教科書に慣れ親しんでいるものにとっては違和感すら覚える。また、配列の意図——どのような意図で各レッスンを並べたのか——も見えてこない。第3巻の分析を待って、あたらめて第1巻から吟味してみたい。

なお、（その1）で紹介した市川三喜氏の『正則文部省英語讀本』に対する評価の中で「会話のひとつひとつに連絡がない」ことが批判されている。確かに、第2巻でも関連性のない対話が羅列されている。しかし、第37課、第38課においては各対話が関連し合っひとつの会話をなす構成になってきている。これが第3巻でどのようになっているのかにも注目したい。

### 参考文献

外山正一	『英語教授法』	大日本図書	1889
	『正則文部省英語讀本』	大日本図書	1897
語研	『日本英学事始』	日本ブリタニカ	1976
	『英語教授法事典』	開拓社	1962

### 各レッスンの中心となる構文

1	What do you want? I want a pear. We want to play.
2	What are you going to do? I am going to beat a drum.
3	Is this apple good to eat? Yes, it is quite good. No, it is not very good. Yes, it is a very good one.
4	Is it wrong to waste money? Yes, it is very wrong indeed. Isn't it wrong to tell a lie?
5	Have you decided to buy a gun? Yes, I have decided to do so. No, I have not yet decided to do so. Have you been waiting here for your father?
6	What do you write with? With a pen. You write with a pen.
7	What do you want a pen for? To write with. I want it to write on.
8	REVIEW
9	How far have we to go to get to the river? Not very far. How much has one to give to buy a nice kite? Not very much. Which road has he to take to get to the park? This one. What books have we to read up to pass the examination? None at all. How long shall I have to wait here for your brother? You will have to wait a long time. You need not read upon any books for the examination.
10	Did you tell him to get up at once? Yes, I told him to do so. Did he promise to come soon?

11	Has the gate been opened? Yes, it has. When will the new girls' school be opened? In a few days.
12	What is this pen made of? It is made of gold. Whom was this kite bought for?
13	Have you ever been cheated? No, never. Did you ever see a cannon fired? Would you like to hear the piano played? Yes, I should like to hear it very much. Was your brother angry with you? No, not at all.
14	Is the door shut? Yes, it is.
15	Did you see the bird fly away?
16	REVIEW
17	Which book shall we read first? We will read the easiest one first. Which of these pictures do you think the prettiest? The one painted by you.
18	What do you intend to do? I intend to take a walk.
19	Will you run out into the open air? Yes, I will. What a fine day it is!
20	What did you run so fast for? In order to catch a butterfly.
21	Is June always a rainy month? Yes, almost always. do you always get up as early as this? No, very seldom.
22	Does every boy go to school? Doesn't every horse run fast? Every horse run fast. Only some cats have long tails.
23	Are there an pens left in the box? No, there are no more of them. Have you got anything in your hand? Yes, I have got a sparrow. Did any one call while I was out? Yes, your friend Mr. A. called.
24	Are these pictues all for me? No, some of them are for me. Who is the youngest boy in the school? I am.
25	Is there much water in the well? Yes, there is a great deal. How much pater do you want? I want a quire. Very little. I do not intend to study much during the vacation.
26	Have you many friends? Yes, a great many. Have you got many old books in your library? No, I have very few.
27	Haven't you more books than this in your library? No, these are all. Do most foreigners dislike kagos? Which of these baskets holds the most? The one to the right does. I have studied English more than Chinese.
28	When do you carry an umbrella with you? When it is cloudy. I carry an umbrella when it is cloudy.
29	Why do you study botany? Because I want to know something about plants. I study botany, because I want to know something about plants.
30	How far did you go? As far as the river. How obstinate the boy is!
31	Do you know either French or German? No, I know neither. Will you go with him, or shall

	I? Well, let both of us do so. Who do you think is wrong?
32	Do any Japanese understand Italian? Yes, some few do. There would be little use in asking his opinion.
33	Have you had many visitors this afternoon? No, not more than a couple.
34	Do you every often go to the Rokkumei Kwan to play billiards? No, only every now and then. Don't you sometimes read Chinese books? Yes, once in a while. When will you go to Hakone with me? I will go to Hakone with you whenever convenient to you.
35	Do you ever smoke? No, never. My dog isn't always as snappish as he is this morning. I couldn't find my knife anywhere.
36	Why! you are very early. Well, it is about time to go on board the steamer. How long do you expect to be away? Less than three years. Where is your friend for? He is from Osaka. Has he made up his mind to go abroad with you?
37	I shall have to be ready by tomorrow morning. The tailor promised to get my new suit finished by Saturday. The examination is take place on the fifth of next month, I believe. I think I shall be in time to catch the train. I shall miss the train if I don't hurry up.
38	How much does a good-sized salmon cost? About thirty sen. You have to pay more for a sole than for a salmon, provided they are the same size, It is a little less than two miles to the lake by the short cut over the hill.